NEWS RELEASE

立命館大学

2018.10. 9 ＜計2枚＞

京都大学記者クラブ加盟各社　各位

立命館大学広報課

ハワイ日本人移民の歴史を振り返る
2018 年度 国際言語文化研究所 連続講座
「ハワイ日本人移民 －150 周年から考える－」開催

国際言語文化研究所は、連続講座「ハワイ日本人移民 －150 年から考える－」を開催いたします。

2018 年は、日本で最初の集団移住者がハワイに向かって 150 周年となる節目の年です。ハワイ移住後、日本はアメリカやカナダ、やがてブラジルやペルーなどの南米へも移民を送り出し、グアムへの移住も 150 周年、ブラジルとキューバが 120 周年、ウルグアイが 110 周年、そしてベネズエラも 90 周年にあたります。

移民たちは、差別や排斥と闘いながら、現地で定住・同化し、日本人移民史を構築してきました。彼らの移住は日本文化の移動を生み出し、なかには現地で変化が生じたものも見られました。また、移住先から祖国・日本へ音楽や芸術などの新しい文化が持ち込まれることもありました。

本連続講座では、日本人最初の集団移住先であるハワイで彼らが築き上げた歴史を再考するとともに、ハワイ移民を中心に新しい移民史研究の飛躍を目指したいと考えています。

記

日　時 ： 2018 年 10 月 5 日・12 日・19 日・26 日（いずれも金曜日）17:00－19:00（開場 16:30）
※第 1 回は終了しました。
会　場 ： 立命館大学衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館 カンファレンスルーム
参加費 ： 無料・事前申込み不要
内　容 ： 別紙をご覧ください。
主　催 ： 立命館大学国際言語文化研究所

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先
立命館大学国際言語文化研究所　担当：安川・石井
TEL.075-465-8164
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/lcs_index.htm

別紙

【第 1 回】10 月 5 日(金)「生活と移民」 ※終了しました

本年は日本で最初の集団移住者がハワイへ向かって 150 周年となる節目の年である。同じくグアムへの移住が 150 周年、ブラジルが 120 周年、キューバも同じく 120 周年、ウルグアイ 110 周年、そしてベネズエラも 90 周年に当たっている。そこで講座の第 1 回目では、まず日本人が海外へと拡散するに至ったグローバルな文脈について俯瞰し、続いて最初の集団移住先であるハワイで日本人が築き上げたコミュニティと生活について、仕事や家庭、そして信仰といったローカルな視点から見つめてみる。

司会:小川 真和子(立命館大学)

報告者:小川 真和子(立命館大学)、守屋 友江(阪南大学)

【第 2 回】10 月 12 日(金)「文学と移民」

日本からハワイへ渡った移民たちは、現地で新聞・雑誌を発行し、それらの中に豊かな文学表現を残した。しかし、移民たちの文学的営為は、日本文学ともアメリカ文学とも認められず、国家国民の文学史の狭間で埋もれたままとなっている。では、日系ハワイ移民たちの文学は具体的に、いかなる表現を作り出したのだろうか。また、残された作品群をどのように評価することができるだろうか。本講座では、日系ハワイ移民たちの文学に照明を当て、彼らの表現から浮かび上がってくる日本(人)とアメリカ(人)との境域の問題について検討していきたい。

司会:内藤 由直(立命館大学)

報告者:北川 扶生子(天理大学)、篠田 左多江(東京家政大学・名誉教授)

コメント:田口 律男(龍谷大学)

【第 3 回】10 月 19 日(金)「記録と移民」

ハワイ日系人たちは文化に生活の記録を刻みつつ、集団的記憶を醸成・継承してきた。音楽や盆踊り、交流会や雑誌の発行などといった文化活動は、互いのつながりを深めると同時に共同体意識を形成する助けとなり、世代間の交流を促した。また日本との関係性を確認し、日系人としてのアイデンティティを確立する役割も果たした。第 3 回では、ハワイにおける日本の音楽・芸能の文化活動に記録されたハワイ日系人の日本とのつながりを探りたい。

司会:ウェルズ 恵子(立命館大学)

報告者:中原 ゆかり(愛媛大学)、安井 眞奈美(国際日本文化研究センター)

【第 4 回】10 月 26 日(金)「教育と移民」

ハワイへの移民は明治初年に始まり、1885 年から 10 年続いたハワイ官約移民で本格化した。その後もハワイに移り住む日本人は増え続け、1930 年代には 4 万人近い日本人(一世)と 12 万人余りの二世が暮らしていた。ハワイに渡った人々はサトウキビ畑の周辺に集住し、教会や仏教会のお寺を建て、二世のために日本語学校を設けた。そして 1930 年代になるとハワイの中学や女学校に進んだ二世のなかから、日本で教育を受けるため来日するものが増えてきた。日米関係が悪化し始めた時代、ハワイからやってきた女子学生たちは何を学び、どのように生きていたのか。ある女学生のルーツとともにこの問題を考えてみたい。

司会:河原 典史(立命館大学)

報告者:坂口 満宏(京都女子大学)

コメント:神田 稔(株式会社神田育種農場 代表取締役)　　※敬称略